

130<sup>th</sup>  
共に創ろう! 明日の名古屋  
名古屋商工会議所 創立130周年

—since1881 おかげさまで130周年—

名古屋商工会議所

# 130年の あゆみ



名古屋商工会議所



※名古屋商工会議所のシンボルマーク  
ローマ神話に出てくる商業の神マーキュリーの杖(羽と蛇)、  
そして工業のシンボル歯車を組み合わせたデザインです。



※創立130周年記念ロゴマーク  
ロゴマークの中の2つの顔は、名古屋商工会議所と会員企業  
の皆様を表しています。地域と企業の将来を見据え、共に  
名古屋の発展のために前進しようとの決意を表現しました。





## 目次

### 130年のあゆみ

明治時代

プロローグ

「日本に『世論』はあるか？」

「明日の名古屋」のために立ち上がった43名の同志

名古屋経済の夜明け

「栄町の商業会議所」の誕生

躍進する名古屋へ進むインフラ整備と大規模博覧会の開催

大正・昭和初期

第一次世界大戦の勃発と関東大震災

大規模なイベント「御大典奉祝名古屋博覧会」の開催

昭和初期・中期（終戦）

幻の「港の飛行場」へ名古屋の国際化に向けて

太平洋戦争、焼土と化する名古屋

昭和中期・後期

戦後の名古屋の新名物「名古屋テレビ塔」の誕生

伊勢湾台風と高度成長期の名古屋

昭和後期・平成初期

国際交易の輪をひろげた「ワールド・インポート・フェア・ナゴヤ'85」

悲願達成！「愛・地球博」の開催決まる

平成初期・現代

夢の大プロジェクト 中部国際空港（セントレア）の開港

「愛・地球博」の開幕へその名に相応しい環境万博へ

モノづくりランド・シンフォアへ見えない・触れられない技術との出会いと体験

創立130周年、皆様と共に明日の名古屋に向けて歩む

## 現在の取り組み

中小企業振興

地域振興

## 特別コラム

「会報『那古野』と名古屋人上遠野富之助」

「名古屋商工会議所創立130周年に寄せて」

林 董

参考文献





プロローグ 「日本に『世論』はあるか？」

慶応3年(1867年)、明治維新政府の王政復古令により、わが国は近代統一国家として新たな歩みをスタートしました。政府は、長い鎖国政策によって欧米諸国に立ち遅れた国力を増進強化するため、富国強兵、殖産興業などの近代化政策に総力を挙げましたが、その道は険しく、前途には、いくつかの難関が横たわっていました。そのひとつが、幕末に列強諸国と結んだ「不平等条約」の存在でした。「自主独立と殖産興業を阻む不平等条約を改正せよ」という声は国内に次第に高まり、

時の大蔵卿の大隈重信たちがその折衝にあたることとなりました。しかし、「世論が許さない」ことを理由に改正を迫る明治政府に対し、英国公使ハリー・パークスは次のように答えます。「日本に『世論』はあるか?」「日本には多数が集合協議する仕組みがないではないか。個々銘々の違った申し出は、『世論』ではない。」

商工業者の世論機関の必要性を強く感じた大隈重信は、欧米の商業会議所制度などを参考に、実業家たちに産業機関の設立を働きかけました。一方、実業家たちも、明治維新後の商工業界の混乱や産業不振の打開に苦心し、「致団結の必要を痛感していたときであったため、直ちにこの動きに応えます。明治11年、東京では渋沢栄一らが、大阪では五代友厚らが発起人となって、現在の商工会議所の前身である「商法会議所」が設立され、以後全国の主要都市でも相次いで会議所が設立されました。

日本初の世論を代表する組織「商工会議所」は、このようにしてその産声をあげたのです。世界で最初の会議所が誕生したのは、1599年、フランスのマルセイユでした。マルセイユは、地中海沿岸に位置し、貿易の一大拠点となっていたため、当然貿易に伴う利害が発生し、その話し合いのため、商人のギルド組織を母体として任意組織として設立され、その後、ナポレオンの大陸遠征に伴い、ヨーロッパ諸国に広まることとなりました。



マルセイユ商業会議所 画像提供:マルセイユ商業会議所

コラム

商工会議所の起源はマルセイユ

世界で最初の会議所が誕生したのは、1599年、フランスのマルセイユでした。マルセイユは、地中海沿岸に位置し、貿易の一大拠点となっていたため、当然貿易に伴う利害が発生し、その話し合いのため、商人のギルド組織を母体として任意組織として設立され、その後、ナポレオンの大陸遠征に伴い、ヨーロッパ諸国に広まることとなりました。

東京商法会議所 初代会頭 渋沢栄一  
日本初の会議所である「東京商法会議所」の発起人であり、同会議所の初代会頭を務めました。  
画像提供:渋沢史料館



幕末期の英国外交官 ハリー・パークス  
慶応元年(1865年)から18年間、在日の英国公使を務め、明治維新後の日本での英国の地位を固めました。



当時の大蔵卿 大隈重信  
第8代、17代の内閣総理大臣を務めたほか、早稲田大学の創立者でもあります。

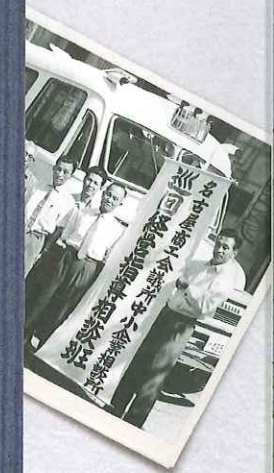
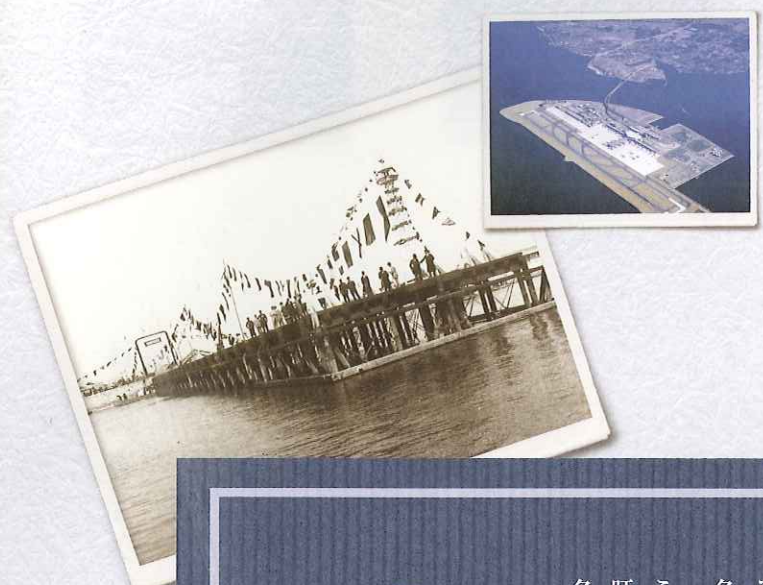


# 130年のあゆみ。

名古屋商工会議所は、明治14年(1881年)に創立されてから、おかげさまで平成23年(2011年)で、創立130周年を迎えました。まだ黎明期にあった130年前の名古屋経済。その中で誕生した名古屋商工会議所のこれまでの歩みは、名古屋経済の発展の歴史そのものといっても過言ではありません。この130年の間、当地の産業界は幾多の苦難を乗り越え、旺盛な企業家精神を発揮して、名古屋の繁栄の大きな原動力となってきました。

ヨーロッパ戦乱の名古屋市に及ぼせる影響調査  
名古屋商工会議所

名古屋商工会議所





名古屋商法会議所は、その後、中央・地方官庁の諮問に際すると共に、地区内商工業の発展に向けて精力的に活動を展開します。しかし、この「商法会議所」は、法律上何の権限もなく、有志実業家によって組織した一種の私設団体に止まり、その基礎も脆弱で、勢力もまた微弱でした。しかし、明治18年、県令の認可を受け、名古屋商工会議所に組織を改めた後、明治24年1月には、政府が発令した商業会議所条例に基づき、商工会議所を発展的に解消し、新たに名古屋商業会議所として再スタート。これにより、会議所ははじめて、私設団体から法的団体となります。しかし、名古屋商業会議所の創立間もない明治24年10月28日、中部地域を濃尾地震が襲いました。市内の商工業への影響は甚大で、金融界は恐慌をきたしました。本所は、直ちに被害状況と商工業者の実情調査に乗り出し、商工業者の損害の大きさから、各種税金の負担に耐えられないと判断し、営業税や雑種税などの免除を陳情しました。



福沢諭吉の講演内容を伝える当時の月報(明治29年5月号)

**コラム 「百万都市・名古屋を」**  
目指せと説いた福沢諭吉  
明治29年4月、本所で開かれた講演会で福沢諭吉が名古屋の将来について次のように述べました。  
『名古屋は中央の樞区になるに違いない。市長に聞くに、名古屋の人口は二十万人で、人口の増すのは年々一万人のこと。名古屋の人口の二十万と云うのは好いが、一年に二万ばかり増すと云う事は人口の五分の割合で、それでは増し方が甚だのろい。三十年の間に百万人の人口にせねばならない。』  
ちなみに、講演の年から30年後の名古屋市の人口は、80万1000人で、100万人に達するのはそれから9年後、昭和9年のことでした。



濃尾地震の被災地  
明治24年10月28日に中部地域を襲った大地震は、美濃・尾張を中心に大きな被害を与えました。

**開設当時の名護屋停車場**  
名古屋に初めて汽車が走ったのは、明治19年3月1日、武豊～熱田間でしたが、その後4月には清洲へ、5月には一ノ宮まで延長され、街の西郊笹島に名護屋停車場が開業。東海道鉄道の開業は、名古屋産業界の発展に大きな影響を与えました。



熱田神戸町  
七里の渡し常夜灯  
現在の名古屋港の発祥の地は熱田の浜、宮の渡でしたが、明治の中期、産業の進展に伴い、「海路」の必要性が生まれました。こうした背景から、本所は積極的に築港に向けて建議要望を実施。明治29年に「近代港づくり」を目指して築工が開始されました。

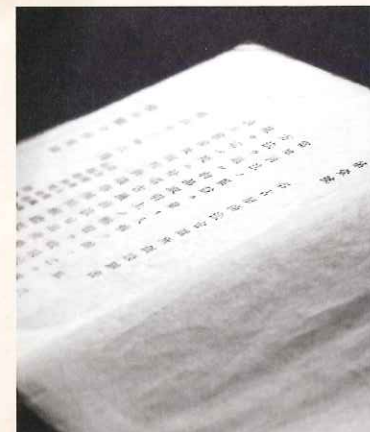
## II 名古屋経済の夜明け

行なつたほか、地域の産業発展に向け、熱田港(現在の名古屋港)の築港や中央線の建設促進などに向けて積極的に要望し、その実現に大いに努力しました。



明治14年、愛知県々令に提書された名古屋商法会議所の「創設願書」、「創設主意書」、「規則」、「議事規則」の草案  
所蔵:名古屋市政資料館

いとう呉服店(現松坂屋)の伊藤次郎左衛門(祐昌)  
32歳の若さで名古屋商法会議所の初代会頭に就任しました。



名古屋商法会議所の創設願書の草案  
にわかに企業熱の高まる中であって、乱れがちな取引上の弊害を改め、当地の商法の良さを広めようという創設の目的が記されています。

商法会議所の設立の動きが全国に広がる中、名古屋にも会議所設立の機運が高まります。当時の名古屋の経済界は、明治維新後の社会・経済的な大変革によって、これまでの取引慣習や信用組織がくつがえされ、商工業界は安定さを欠き、産業の衰退を招くなど、大変な混乱期にありました。

こうした衰退を憂い、名古屋経済の繁栄を実現するため、実業家たちは自ら立ち上がりました。  
明治14年(1881年)2月14日、伊藤次郎左衛門、岡谷惣助をはじめとする43名の同志によって名古屋商法会議所の設立の議が決められ、2月28日に愛知県々令に創設願書を提書し、

同年3月28日、名古屋区長議事堂において発会式を挙行。ここに、自治的統制のもとに協力一致し、商工業の発展に努めるための機関として、現在の名古屋商法会議所の前身である名古屋商法会議所が設立されました。  
その後、名古屋商法会議所は「特定の業種や産業に限定される

ことなく、また企業の大小にも関係なく、商工業一般が広く含まれる」という「総合的な経済団体」であり、また「都市を中心とした、ある一定の地域の商工業者が寄り集まる」という「地域団体」としての性格も帯びて、地域商工業の調査や改善、発展に力を注ぐようになっていきます。

## I 「明日の名古屋」のために立ち上がった43名の同志



濃尾地震が発生。緊急の対策を陳情する(明治24年)  
産業の発展に向け、インフラ整備に努力  
私設団体から法的団体に(明治24年)



名古屋商法会議所誕生  
「明日の名古屋」のために43名の実業家が立ち上がる(明治14年)  
名古屋にも商法会議所を  
混乱する名古屋経済





名古屋港が開港、世界へ門戸を開く

熱田町が名古屋市に編入されたことにより、「熱田港」も「名古屋港」として同市に包含。明治29年に着工した工事も進み、明治40年11月には開港場に指定され、貿易港として世界への門戸を開きました。



渡米実業団の感謝状

日本初の渡米実業団は、明治42年8月19日から同年12月17日の91日間、米国の26州、53都市を訪問するという壮大なものでした。この感謝状は、帰国後に参加した実業家の連名で米国各地の商業会議所や団体に贈ったものです。



「第10回 関西府県連合共進会」の会場

第10回関西府県連合共進会は、明治43年3月16日から90日間に渡って開催されました。この共進会は、大阪で1回目を開催して以来、3年ごとに開かれていたもので、名古屋での共進会には3府28県が参加し、その規模は前例のないほど大きなものでした。会場跡地は鶴舞公園として現在も市民の憩いの場となっています。

#### Ⅳ 躍進する名古屋へ進むインフラ整備と大規模博覧会の開催

我が国の産業は、日露戦争後には景気の回復につれて発展の機運を迎え、名古屋も企業勃興時代を迎えます。目覚ましい躍進が始まり、産業のみならず、各方面にめざましい発展をもたらしました。

明治44年に全通をみました。さらに本所は、日露戦争後の商工業者の経営改善や産業の開発、商工施設の改善などに向けて積極的に活動を展開します。

本所は、この趨勢に伴い、産業の発達に不可欠なインフラ整備に力を注ぎます。

明治29年に着工された「熱田港」については、実現に向けて官民一体となった取り組みを展開。名称を「名古屋港」として明治40年には開港場として指定され、貿易港として世界への門戸を開きました。

また、中央線全通の早期実現に向けても促進運動を積極的に行ないます。この運動は功を奏し、

明治42年秋には、米國太平洋沿岸商業會議所の招へいにより、本所からは3名が、渋沢栄一率いる我が国初の渡米実業団に参加し、日米親善、相互経済協力に多くの成果を収めました。

赴任した上遠野富之助(後の第8代会頭)が、後日書き留めたものです。また、第6代会頭の奥田正香は、当時の本所の様子について、次のように述べています。

「三府に亘ぐとも云ふべき名古屋市なるに名古屋商業會議所事務所の見苦しき事は他の會議所より最下等の地位にあるものと思うに、多少なりとも好き所へ移転したし」。

経済の発展に伴い事務も繁多となり、手狭な事務所では大変



旧名古屋商業會議所本館(現:建中寺徳興殿)

栄町時代の本所所屋の本館は、その後大正10年に大池町に移転され、さらに、昭和9年に東区の建中寺に移築され、今も徳興殿として現存しています(国登録文化財)。入母屋造瓦葺で、2階部分を大空間の「集会所」としており、建中寺に移築されてからは量産の大広間となっています。名古屋市街地に建つ木造建築としては最大級のものです。



建中寺徳興殿2階大広間  
(旧名古屋商業會議所集会所)

栄町時代の所屋



#### Ⅲ 「栄町の商業會議所」の誕生

「当時名古屋の人で商業會議所というものが、どういふものであるかを知って居る人は少なかった。商業會議所は何処にあるかと聞かれて、マアそんなものがありますかと云ったやうな風であった。…無理もない訳で商業會議所の事務所は桑名町の加藤庄兵衛と云ふ味噌屋の座敷を借り、表に商業會議所の看板を掲げてあったと云う有様」。

これは明治26年、名古屋商業會議所の書記長として東京より

不便であったことに加え、中部の大都市の商業會議所としてその面目を発揮するため、会員達は新たな所屋の実現に動きまゐります。

明治28年6月10日の総会で起工を決し、総額1万8,000円の予算で工事が開始され、翌29年1月に完成をみました。

ここに長年の願望は達せられ、やがて大正10年に大池町へ移るまでの四半世紀の間、「栄町の商業會議所」として幾多の業績を残すのでした。





## I 第一次世界大戦の勃発と関東大震災

大正3年、ヨーロッパ全土を巻き込んだ第一次世界大戦が勃発。前年からの不況もあり、日本の産業界は混乱と不安に包まれました。後に日銀の総裁に就任した井上準之助氏、当時横浜正金銀行総裁は、当時の混乱の状況を「まったく闇の中で熟睡している時に急に叩き起こされ、ねぼけ頭にどろろが西か東かと尋ねられたようなものだ」と例えています。

世界大戦の影響によって、毛織物の輸入が途絶え、品質の落ちる国産毛織物に頼らなければいけなくなるなど、名古屋の産業界に

も大きな影響があったため、本所では、それらの影響調査にあたり、その情報提供に努めました。その後、戦争特需に沸いた日本経済は空前の好景気に恵まれ、名古屋経済も一大発展を遂げますが、休戦とともに景気は停滞し、大正9年には株式市場が大暴落。さらに追い打ちをかけるように、大正12年には関東大震災が発生し、産業界に大きな衝撃を与えます。

にまでは及びませんでした。本所では、再三にわたり臨時総会を招集し、応急対策などの方法を講じ、義援金の募集を行なうなど支援に努めました。大正9年の株式市場の暴落、同12年の関東大震災を経て、日本の経済はしばらく停滞を続けました。そのため、大正14年ごろから商業会議所の一層の活動と組織強化を望む声が高くなり、昭和2年には、新たに商工会議所法が公布され、本所は名古屋商工会議所へ改編されることとなりました。

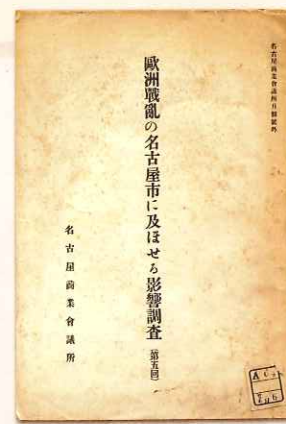
### コラム

**関東大震災を肌で感じた、両口屋是清 大島喜十郎氏**  
「グラグラと恐ろしく揺れて来たので、駆け下りやうと思ふと僅か十五尺か廿尺の階段が二三尺宛左右へうねりうねりして足が浮いておりられぬように欄干につかまて転げようにお濠端の電車道へ避難した」。これは当時たまたま商用で東京に居合わせた両口屋是清、10代目大島喜十郎氏（当時社長）が語った関東大震災の様子です。マグニチュード7.9、関東の広い範囲に影響を与えた震災の大きさを物語っています。

大正14年7月15日には、NHK名古屋放送局のラジオ放送が開始され、名古屋で初のラジオ電波が発信されました。同放送局の開局式は本所にて挙行され、全国で3番目の放送局のスタートを祝いました。  
出典：Network 2010



**大須門前町**  
大正時代に入っても大須は名古屋一の繁華街として繁栄。数島館、世界館、電気館、文明館、港館、太陽館などの映画館や歌舞伎座、宝生座、黄花園などの芝居小屋が軒を並べていました。  
出典：Network 2010



**ヨーロッパ戦乱の名古屋市に及ぼせる影響調査**  
第一次世界大戦は、名古屋市の産業界に対しても重大な影響を及ぼしたため、本所は大正3年8月より5回に亘り「調査書」を発行しました。

## II 大規模なイベント「御大典奉祝名古屋博覧会」の開催

大正15年頃より、大都市として学術文化面の充実も必要との考えから「名古屋に国立総合大学」という声が強くなり、本所が中心となって、名古屋総合大学設立期成同盟会を組織。以後実現に向けて奔走します。最終的には愛知医科大学を国立に移管することに方針を変え、昭和6年5月に官立名古屋医科大学（現名古屋大学医学部）が誕生しました。

また、昭和3年には、昭和天皇即位記念と産業振興を目的とした「御大典奉祝名古屋博覧会」が、鶴舞公園にて開幕。

当時の名古屋毎日新聞には、「…会場内では名古屋美人を網羅した名古屋をどりを初め、福引余興など色々な催しをして会期中に四百万人の客を引きつける心積もりで入場者吸引策に大車輪である。」と記載されており、明治43年の「第10回関西府県連合共進会」以来の大規模な博覧会に大きな期待が寄せられていたことを伝えています。

展示するなど博覧会の成功のために尽力しました。また、地域産業の発展とともに本所所屋も移転や増築が行なわれます。大正10年には栄町から大池町へ所屋が移転。同12年に鉄筋コンクリート造りの新所屋が建設されます。その後度々増築を行ない、昭和10年には増築工事が完了します。増築が完了した所屋では、お披露目を兼ね、商工展覧会を開催し、一般の方々に広く公開しました。

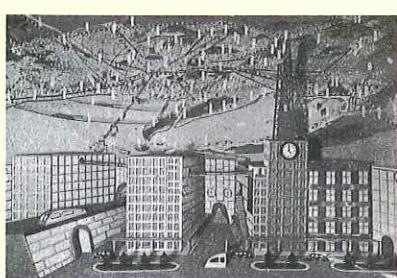
**名古屋医科大学（現名古屋大学医学部）設立**  
昭和6年には愛知医科大学は官立の名古屋医科大学と改称。昭和14年には名古屋医科大学を発展的に改組して名古屋帝国大学が誕生することになりました。  
出典：Network 2010



**御大典奉祝名古屋博覧会**  
昭和3年9月15日から11月30日までの77日間、鶴舞公園で御大典奉祝名古屋博覧会が開催。入場者数が194万人を超える大規模なものでした。  
出典：Network 2010

### コラム

昭和10年に増築が完了した本所所屋のお披露目を兼ねて開催した商工展覧会。展覧会の中で目玉イベントの一つが、「明日の名古屋」に設けられた「百年後の名古屋」の模型の展示でした。昭和11年の名古屋商工会議所月報に記載されている商工展覧会記録の記述によれば、当時の経済界が描いた「百年後の名古屋」は、「…都心は現在の名古屋市で高層建築の櫛比せる商業ビル街と化し、…又伊勢湾頭に築造された大国際エアポートと都心とは懸垂軌道式航空車氣に依つて連絡される…」と記載



「百年後の名古屋」模型の写真

**大池町に新築となった所屋（大正12年）**  
出典：Network 2010





I 幻の「港の飛行場」～名古屋の国際化に向けて～

「名古屋もこれから、だんだん立派になっていくだろうが、それには足りないものが3つある」

昭和2年、初冬のある日、伊藤次郎左衛門祐民(当時、名古屋商工会議所会頭)、瀧定助正太郎(同副会頭)、岡谷惣助清治郎(同副会頭)の三氏が顔を合わせた席上、伊藤氏がこう切り出した。

伊藤氏の言う3つの足りないものとは、「ゴルフ場」と「ホテル」、そして「飛行場」。

「国際化」が今後の名古屋の重要なキーワードと考えた本所は、飛行場の実現に向け、政府、県市への要望に加え、航空会社に旅客機の寄航を要請するなど積極的な活動を展開しました。その結果、当時埋め立てが終わったばかりであった名古屋港第10号地を、急遽「仮飛行場」として使用する事が決定し、昭和9年、名古屋「仮飛行場」は、念願の開場を迎えます。その後、「本飛行場」の建設もその沖合(第11号地)で進められ、16年夏までに

極的な活動を展開しました。その結果、当時埋め立てが終わったばかりであった名古屋港第10号地を、急遽「仮飛行場」として使用する事が決定し、昭和9年、名古屋「仮飛行場」は、念願の開場を迎えます。その後、「本飛行場」の建設もその沖合(第11号地)で進められ、16年夏までに

は庁舎などもほぼ完成。同年10月、名古屋飛行場として開設されました。しかし、その後太平洋戦争の開戦による戦局の激化によって海軍に接収された新飛行場は、終戦まで軍用機のテスト飛行や空輸の基地として細々と使われることとなりました。



名古屋港に開場した「名古屋「仮」飛行場」

昭和9年に名古屋港10号地に開場した名古屋「仮」飛行場。華々しく開場したものの、残念ながら一般の人々には関心が薄く、利用者はきわめて少なかったそうです。

写真提供:名古屋港管理組合

当時の名古屋駅

昭和9年に「百万都市」を達成した名古屋は、インフラ整備が急速に進みました。昭和12年2月には名古屋駅の旧駅舎(笹島)の北西(現在の名古屋駅の場所)に地上6階地下1階の新駅舎が新築され、校通も完成しました。



コラム

名古屋に「ゴルフ場」と「ホテル」を!!

ゴルフがごく限られた人達のスポーツであった当時、近代都市・名古屋を目指し、経済界を中心に本格的なゴルフ倶楽部設計計画が作られました。その後、昭和3年に本所において名古屋ゴルフ倶楽部の設立総会が開かれ、翌年の9月に中部地域初のゴルフ場が和合に開設されました。



日本を代表する名門、名古屋ゴルフ倶楽部・和合コース  
写真提供:名古屋ゴルフ倶楽部



開業75周年を迎えた名古屋観光ホテル  
写真提供:名古屋観光ホテル

II 太平洋戦争、焼土と化する名古屋

昭和16年、日本は英米両国に対して宣戦布告し、太平洋戦争(昭和14年に第二次世界大戦が勃発に突入しました。当地の産業も、機械器具工業の急膨張や繊維、陶磁器などの平和産業の衰退など大きな影響を受けました。

世の中が戦時体制一色になる中で、産業界も変化を余儀なくされます。一県一行の命令の下、

愛知・名古屋・伊藤の3銀行が合併し東海銀行に、また新愛知・名古屋新聞社が統合して中部日本新聞社が誕生したように、統合の動きは本所にも及びました。昭和18年、名古屋、豊橋、半田、一宮、岡崎の五会議所によって、「愛知県商工経済会」が発足。以降、商工経済会は、国策協力機関としての役割を展開することとなりました。

その後戦局は悪化の途を辿ります。名古屋では昭和20年新年早々から空襲に始まり、大池町の本所所屋もドームと前館三階を失い、5月には名古屋城天守閣も消失。5月下旬までに、名古屋市の中心部は見渡す限りの焼土と化しました。

その後、戦後の復興に向け、商工会議所の復活を要望する声が起こり、戦時体制の商工経済会に終止符を打ち、昭和21年に再び商工会議所制度が復活されることになりました。

コラム  
中小・小規模企業の経営支援を強化する商工会議所

本所では、地域の商工業者の経営相談に応じるため、昭和12年に「商工相談所」を開設。さらに昭和14年には市内に2つの支所を設け、地域の商工業者の経営支援を積極的に展開しました。

支所の開設を知らせる当時の記事には、「商工業の経営全般にわたって一切無料にて懇切丁寧、迅速をモットーとして」相談に応じており、また商工業者各位におかれましては積極的なこの支所を御利用せられまして」と記載されています。

現在では、市内に5つの支所があり、地域の中小・小規模企業の皆様の経営のご相談に応じえています。



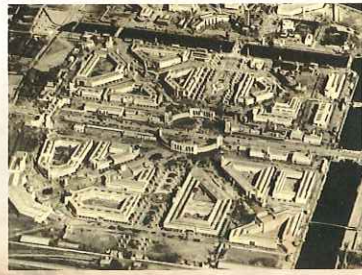
支所の開設を知らせる当時の記事  
(昭和14年10月10日 名古屋商工会議所時報掲載)



戦前最後の国際博覧会

「名古屋汎太平洋平和博覧会」

夏季オリンピックと万国博覧会の同時開催が東京で予定される中、「名古屋でも国際的な博覧会を」といった機運が起こり、昭和12年3月15日から78日間、名古屋港北の臨海地帯熱田前新田を会場に「名古屋汎太平洋平和博覧会」が開催。参加国は29カ国にのぼり、来場者数は480万人を数えました。この博覧会以後、日本は戦争拡大の道を歩み、昭和15年に開催される予定であった東京でのオリンピックと万国博覧会も中止されることとなりました。



終戦直後の栄・広小路付近 写真提供:中日新聞社





# I 戦後の名古屋の新名物「名古屋テレビ塔」の誕生

「当時の新聞は勿論写真入りで報道はしてくれたが、どの社の人も一様に私を捕まえて、あれは計画的にやったことだろう、という疑いがあった。」名古屋テレビ塔(株)鈴木営業部長(当時)は、昭和31年2月号の名古屋商工会議所月報「テレビ塔の裏話」で、来場者が100万人を突破した当時の様子を以上のように語っています。

新聞記者が不審に感じたのもそのはず、なんと100万人の来場者が、名古屋テレビ塔の設計者で、戦後多くの電波塔・観光塔の設計を手がけた「塔博士」内藤多仲氏(当時早稲田大学教授)のお嬢さんだったのです。

営業部長は「そうとられるのも無理はない、と一応苦笑して見たものの、これは神ならぬ身の

知る由もなき偶然の出来事だった」と心の内を語っています。

名古屋の中心地にNHKの電波塔として建設された名古屋テレビ塔は、東京タワーができるまで日本一の高さ(180m)を誇り、内部に展望台へのエレベーター設備を施すなど、東洋のエッフェル塔ともいふべき観光施設として誕生(総工費2億3,000万円)。

本所は、その建設にあたり、財界

から2,000万円を募集し、名古屋テレビ塔(株)の設立を推進するなど、建設促進に尽力しました。

開業当時、名古屋テレビ塔では、「日本で最初に建設された電波鉄塔にのぼろう」と長蛇の列ができました。そして、その後も戦後復興のシンボルとして多くの観光客の目を惹きつけ、各地で建設されたテレビ塔の参考となるのです。



## 開業当初の名古屋テレビ塔

昭和29年に完成した名古屋テレビ塔は、翌年の4月には来場者が100万人を越えるなど、戦後の名古屋の新名物として人々の興味を惹きました。当時は高層ビルが建設されていなかったため、名古屋の中心街である栄の空が広く見えるのがとても印象的です。

写真提供:名古屋テレビ塔(株)



昭和32年には、華々しく名古屋駅前地下街が誕生し、名古屋における地下街の草分けとなりました。また、29年に起工された名古屋駅一帯間の地下鉄も昭和32年3月に開通しました。

## コラム

### な・ご・や商業フェスタの始まり

毎年4月に、市内の百貨店や商店街など、大型店と中小小売店が一体となり、商店街や小売業の振興を目的に開催されている「な・ご・や商業フェスタ」。その前身にあたるのが、昭和31年に第一回が開催された「名古屋商業感謝祭」です。



な・ご・や商業フェスタPR活動の様子

現在同様、当時も顧客にラッキーカードを渡し、メーカー、問屋側から寄贈をうけた商品を抽選により提供するなどのイベントが開催されていました。



ラッキーカード  
※ラッキーカードは、な・ご・や商業フェスタ2011のもの。

# II 伊勢湾台風と高度成長期の名古屋

昭和34年9月26日、東海地方を襲った伊勢湾台風は、名古屋地方気象台が始まって以来の風速45.7メートルを記録。伊勢湾の堤防を乗り越えた高潮は、内陸部まで侵入し、当地域に未曾有の被害をもたらしました。

本所では、直ちに緊急正副会頭会議、災害対策中小企業委員会を開催し、「災害復旧対策本部」を設置。被災中小企業のための金融、税務相談所を設け、災害復旧に努めました。

あった名古屋造船所(現株一H)福原憲次氏(当時社長)は、伊勢湾台風直後の名古屋港の様子を次のように語っています。「毎日内田橋を渡って6号地から7号地へ参りますと、内田橋をわかれは天国と地獄の界といつておりました。(昭和34年名古屋商工会議所月報)」。被害額が、東海三県で5,230億円、愛知県で3,130億円にのぼると言われる伊勢湾台風は、当地域に忘れえぬ爪あとを残したのです。

一方で昭和33年6月から岩戸景気が42ヶ月続いた当時の日本は、長期景気拡大期を迎えていました。当地域も活気に溢れ、名古屋市内のビル建設ブームとともに、市周辺の都市化が急速に進みました。そして昭和44年、名古屋市の人口はついに200万人を突破。昭和46年の第31回世界卓球選手権のちのピンポン外交の名古屋開催、昭和52年、愛知県知事の呼びかけで始まった名古屋五輪の誘致活動など、名古屋の国際化はさらに加速して行くのです。



現所屋ビルが完成  
大正12年に大池町に建設された旧所屋は、戦災に遭い、老朽化も進んでいました。本所では、昭和35年の創立70周年記念事業として、所屋新築計画を発表し、同42年10月6日に竣工を迎えました。

## コラム

### 発進! 移動相談車「さかえ号」

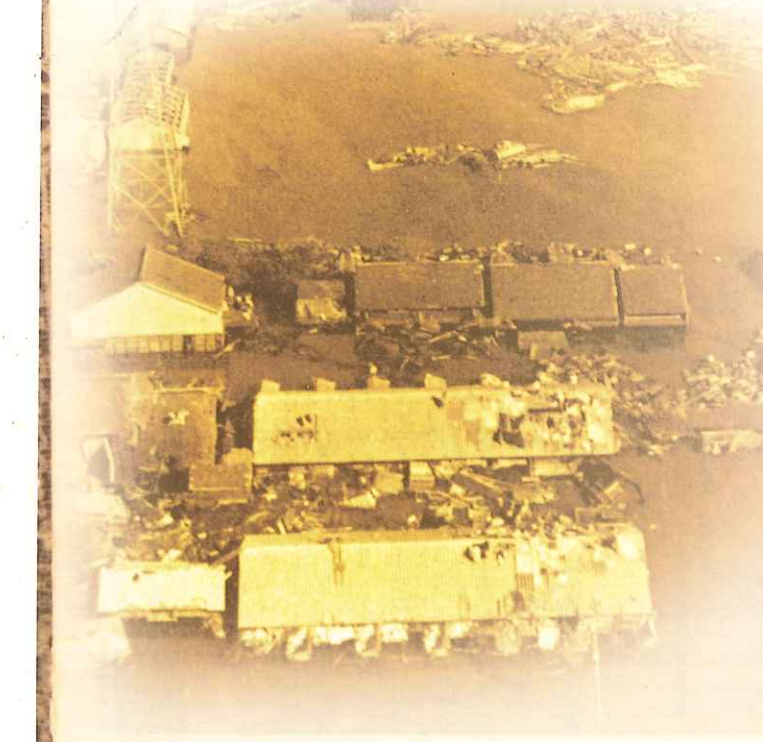
昭和35年、従来の小規模事業者の経営改善指導をより強化するため、移動相談車「さかえ号」による巡回相談を開始しました。巡回相談では、一般的な経営課題に関する相談や納税相談などを承っていました。



移動相談車「さかえ号」

## 伊勢湾台風被害写真

当地域に未曾有の被害を引き起こした伊勢湾台風。写真は水浸しとなった名古屋市内南区六条町付近の様子です。伊勢湾台風により国道一号线が水没しています。



戦後、復興する名古屋

名古屋のNEWシンボル「名古屋テレビ塔」が完成(昭和29年)

地下鉄の開通  
地下街の誕生(昭和32年)

伊勢湾台風襲来(昭和34年)

商工会議所現所屋が完成(昭和42年)

人口200万人突破(昭和44年)  
ピンポン外交(昭和46年)  
名古屋五輪の誘致活動(昭和52年)





■ 歓喜に沸き立つ会場「開催国決定速報報」

2005年開催の万博(愛・地球博)決定の際には、名古屋市内のホテルに政財界の関係者約800人が集い、投票結果を見守りました。  
写真は、愛知での開催が決定し、万歳三唱に沸く会場の様子。

2005年国際博覧会 開催国決定速報報



■ BIE事務所の視察  
平成8年11月18日に、BIE調査団が瀬戸市「海上の森」での建設予定地を視察しました。



■ 投資セミナーの開催  
世界各国が日本との貿易拡大をねらい、投資セミナーを要望。本所でも、多くの投資セミナーを開催しました。

平成9年6月13日未明、モナコからもたらされた朗報によって、名古屋は歓喜に沸き立ちました。同国で開催されていた万国博覧会国際事務局(BIE)の総会において、平成17年(2005年)開催の万博(愛・地球博)開催地が日本、愛知に決定したのです。最後まで誘致合戦を繰り広げたカナダ(カルガリー)との票差は、大差の25票(日本52票対カナダ27票。各口会頭(当時)も「こんなに大勝するとは。中部の経済力が世界に見直された証拠

ではないか(平成9年6月13日中日新聞掲載)」と喜びをあらわにしました。万博の誘致成功は、ソウルに敗れた昭和63年(1988年)のオリンピック(名古屋での開催を誘致)、豊田市が会場から外された平成14年(2002年)サッカーワールドカップと、国際イベントでの連敗を糧に達成した悲願。地元政財界をはじめ地域一丸となり、誘致活動を行った結果でした。また、誘致活動が活発化する

中で、本所では、海外に使節団を派遣し「愛知支持」を要請するなど、誘致成功に向けた活動を展開。さらに、関係国の要請を受けて、投資セミナーなども開催しました。万博開催の決定は、平成17年の開港を目指していた中部国際空港の建設促進の追い風ともなりました。そして、当地域は平成17年に「中部国際空港の開港と愛・地球博」という二大プロジェクトを成功させたのです。

II 悲願達成! 「愛・地球博」の開催決まる

コラム

コンピュータ  
西暦2000年問題への対応

コンピュータ内の年数を表示するプログラムの影響で、誤作動や機能停止の危険が危ぶまれた「西暦2000年問題」。本所では中小企業の不安を解消し、事業への支障を最小限に抑えるために、無料相談室や特別講演会などを開催しました。幸い大事には至らなかったものの、当問題を通じて多くの経営者が経営のリスクを意識して体制を見直したり、対策を意識するきっかけとなったのです。



■ あふれる人で賑わうワールド・インポート・フェア・ナゴヤ'85のバザールゾーン

食料品を中心に即売コーナーが設置されたバザールゾーン。当時は高値で手に入りにくかったアメリカやオーストラリア産の牛肉が格安購入できたことから、牛肉を買い求めるお客さんの長蛇の列が連日続きました。

出典:ワールド・インポート・フェア・ナゴヤ'85 公式記録



■ 「世界の街並み」で大道芸を楽しむ人々

世界旅行を疑似体験できるゾーンでは、多くの観客がステージのショーや大道芸を観覧しながら、世界各国の料理を楽しみました。

出典:ワールド・インポート・フェア・ナゴヤ'85 公式記録

コラム

名古屋ボストン美術館の開館

平成11年4月17日、中区金山に「名古屋ボストン美術館」が開館しました。名古屋ボストン美術館は、米国立ボストン美術館所蔵の優れたコレクションを恒常的にわが国に紹介する唯一の姉妹美術館です。美術館のある金山地区は、早くから名古屋市のまちづくり計画の中で再開発がクローズアップされてきました。名古屋の副都心として、特徴あるまちづくりを行なっていく上で、美術館には大きな期待が寄せられています。名古屋ボストン美術館は、今後も当地域の方々に様々な美術品を紹介していくこととします。

「楽しみいっぱい一日世界旅行」。これは昭和60年、ポートメッセなごやで開催された「ワールド・インポート・フェア・ナゴヤ'85」のキャッチフレーズです。このフェアは、わが国の対外的な課題であった輸入拡大による良好な国際関係の構築と、文化交流を通じた相互理解の促進を目指した画期的なイベントであり、竹田会頭(当時)の提唱によって実現されたものです。キャッチフレーズには、竹田

会頭のこうした思いも込められています。来場者の一番の目的は、世界各国の製品の見学や即売会。43カ国と1地域が出展した会場には、ベンソなどの高級外車を始め、宝石、高級家具、雑貨から食料品に至るまで、数万点におよぶ外国製品が集められました。当時は、1ドル250円の時代。憧れのブランド製品が割安で購入できたこともあって、連日、会場は来場者で

溢れかえりました。また、シルクロード館などのパビリオンや世界の街並みの展示、愛知県と江蘇省の友好提携5周年を記念した「中国武術団」の公演や、「グリーン・ミラー・オーケストラ」のコンサートなど、気軽に海外旅行を疑似体験できる文化イベントとしても親しまれ、3月21日から4月14日までの会期中、当初の想定入場者数150万人を大幅に上回る188万人の入場者を数え、

インポート・フェアは、大成功を収めました。このイベントの成功を受けて、昭和60年10月には、(財)名古屋輸入博記念財団が設立され、以後、輸入促進のための「ワールド・インポート・メッセなごや」や在日外交官を招いての交流会、輸入促進セミナーなどの諸事業を実施し、同フェアの開港後も多くの成果を残しました。

※本所会頭として、同フェア主催の(財)名古屋輸入博記念財団会長も兼任

I 国際交易の輪をひろげた「ワールド・インポート・フェア・ナゴヤ'85」



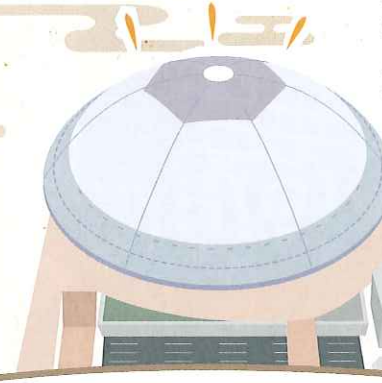
東海豪雨被災商工業者に対する相談窓口の設置(平成12年)



「コンピュータ西暦2000年問題」相談室の設置(平成11年)



名古屋空港国際線新ターミナル竣工  
JRセントラルタワーズ竣工  
名古屋ボストン美術館開館(平成11年)



名古屋ドーム竣工(平成9年)



ワールド・インポート・フェア・ナゴヤ'85(昭和60年)世界デザイン博覧会(平成元年)



# I 夢の大プロジェクト 中部国際空港（セントレア）の開港

平成17年2月17日、開港式を終えたばかりの「中部国際空港（セントレア）」に、機の飛行機が着陸します。当地域が、長年にわたって総力を結集して取り組んできた「夢のプロジェクト」が実を結んだ瞬間でした。

開港にあたって、箕浦会頭（当時）は、「中部国際空港は最先端の技術と創意工夫の結晶として、利用しやすい世界に誇れる

空港（平成17年2月17日日本経済新聞掲載）」と喜びのコメントも述べています。

中部国際空港の構想が生まれたのは、昭和50年代頃。将来の国際化の進展と、それに伴う大量・高速輸送時代の到来に対応するため、中部地域で、新空港建設への機運が高まり始めたことがきっかけでした。しかし、当時の国の反応は鈍く、新空港の建設は

「大きな夢に過ぎませんでした。そこで本所をはじめ地元自治

体と経済界は、一体となって建設促進活動を推進。昭和60年1月には、「中部国際空港建設促進期成同盟会」が発足し、実現に向けた大きな一歩が踏み出されます。さらに、同年12月には本所ビル内に「財中部空港調査会」も発足。建設への具体的な調査や空港全体のイメージの取り纏め

などが行なわれました。こうした活動と地元自治体や経済界の熱意を国に訴え続けた結果、平成8年12月、国の第七次空港整備五箇年計画の中で中部国際空港は、「実施空港」に位置付けられ、建設へのゴーサインがです。

その後、平成10年5月に中部国際空港（株）が設立。平成12年8月に建設がスタートし、念願の大プロジェクトが達成されるのです。



▲開港当初の中部国際空港（セントレア）

中部国際空港は、「国際空港は国が調査・建設するもの」という当時の常識を打ち破り、行政と民間が力を合わせて取り組んだ、これまでにないプロジェクトでした。現在、本所も参画している「中部国際空港二本目滑走路建設促進期成同盟会」が中心となって「完全24時間化」に向けた取り組みが展開されています。

写真提供：中部国際空港（株）



MRJ

▲県営名古屋空港とMRJ（三菱リージョナルジェット）

中部国際空港の開港に伴い、名古屋空港は通勤・航空やビジネス機など小型機の拠点空港となる「県営名古屋空港」として再出発しました。同空港の周辺では、現在開発中の小型旅客機MRJの生産拠点としての整備も進められています。

写真提供：三菱航空機（株）

## コラム

### 公共工事の常識を覆した「空港・中部国際空港」

中部国際空港は、「公共工事の常識を覆した空港」として知られています。トヨタ自動車（株）をはじめとする民間企業がコスト削減を進め、当初計画（総事業費7,680億円）の16%にあたる1,249億円を圧縮。予算を大幅に上回る資金を投じることが多い公共事業のあり方に一石を投じました。また、開港予定日が当初3月9日となっていました。が、「愛・地球博」の開港もあり、開港日を約1ヶ月早めました。



写真提供：中部国際空港（株）

## II 「愛・地球博」の開幕とその名に相応しい環境万博

「私たちは自然の力に謙虚に学び、尊重して、人類と自然、地球が共存して持続可能な発展の方向を見出すことができるよう、この博覧会の準備を進めて参りました」。開幕を明日に控えた平成17年3月24日、財2005年日本国際博覧会協会会長豊田章一郎氏（豊田自動車（株）名誉会長）は、「愛・地球博」会場で行なわれた開会式での挨拶で思いの丈を語られました。

大阪万博以来35年振りに日本で開催された万博、「愛・地球博」

のテーマは「自然の叡智」。自然の素晴らしき仕組みを学び、人々との交流を通じて、地球環境・エネルギー問題など21世紀の人類が直面する課題の解決の方向性や人類の将来の姿を見出すとした思いがこのテーマに表れています。

会期中は技術を凝縮したロボットの実演や、各企業パビリオンが人々を魅了。さらに会場内では、「ゴミを原料にした燃料電池」が発電が行なわれるなど、3R（※）が徹底され、「愛・地球博」の愛称に相応しい「環境万博」と言えます。

した。

開幕前、本所は「ミゼロ運動」などを展開し、PRや機運の盛り上げに尽力。開幕後は「おもてなしの心」で海外来賓客の接遇にあたるなど、万博成功に向けた支援を行なったほか、約1カ月間、独自の「パビリオン」を展示し、当地域の「モノづくりのパワー」を世界に向けて発信しました。

「愛・地球博」は、環境に先進的に取り組む地域「愛知・名古屋」を、世界にアピールした大イベントとなったのです。

※リデュース・リユース・リサイクル

▲I-BAC（愛知・名古屋国際ビジネス・アクセス・センター）  
万博の開催決定を機に、平成14年、本所および愛知県、名古屋市、名古屋港管理組合が一体となって愛知県へ進出を希望する外国企業をサポートする団体「I-BAC」を設立。現在、企業進出の際に必要な様々な情報提供や各種相談・アドバイスなどを無料で行なっています。  
※写真は開設記念レセプションでの事務所正面看板設置の様子



日本の国際博覧会では最多の121カ国、4国際機関が参加  
「愛・地球博」には、日本で開催された国際博覧会の中で最多の121カ国、4国際機関が参加し、海外から多くの賓客が訪れました。中でも「ナショナルデー」「スペシャルデー」は、国際機関などが開催する公式行事・催事を行なう日。



▲スウェーデン王国 ヴィクトリア皇太子殿下（左）

※「ナショナルデー」は、国際博覧会の慣例に基づき、公式参加国が「愛・地球博」への参加を記念して公式行事を開催する日を「自国の日」として定めた日。「スペシャルデー」は、国際機関などが開催する公式行事・催事を行なう日。

### 「愛・地球博」会場風景

平成17年3月25日に開幕を迎えた「愛・地球博」は、半年間の会期を無事に終え、同年9月25日に閉幕しました。最終的には、予想の1,500万人を大きく上回る2,200万人の来場者を記録しました。

写真提供：財地球産業文化研究所



中部国際空港建設促進

愛地球博への来場促進



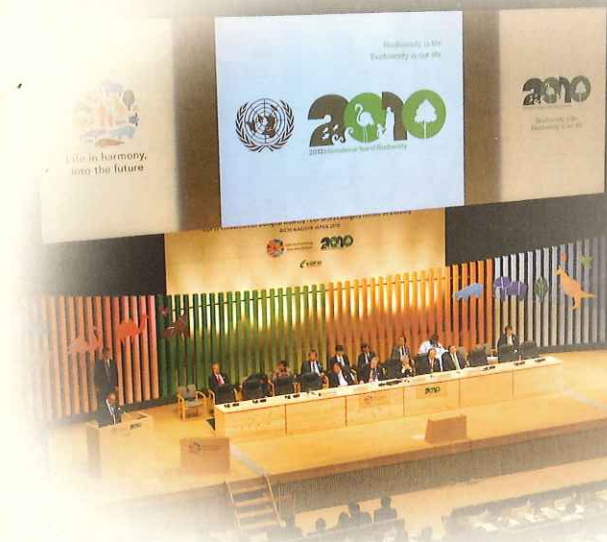
中部国際空港・  
県営名古屋空港が開港  
（平成17年）

中部国際空港

県営名古屋空港

愛地球博の開幕  
（平成17年）





■ 生物多様性条約第10回締約国会議 (COP10) 開会式

COP10は、「生物多様性」をテーマに、各国が持つ課題やその解決方法、世界的な枠組みづくりなどについて議論する国際会議の10回目。平成22年10月11日～29日までの間、名古屋国際会議場で開催され、179の締約国、関連国際機関、NGOから13,000人以上が参加しました。



■ The Next Nagoya大交流会

平成23年1月26日、本所は創立130周年事業として、「明日の名古屋の人脈づくり」をキーワードに、異業種ビジネス交流会「The Next Nagoya大交流会」を開催。当日は約300社、767名もの若手ビジネスパーソンが交流会に参加しました。



■ 愛知・名古屋「内需拡大」推進会議

#### コラム

##### 経済情勢の激変や未曾有の大震災を受けて、緊急支援策を展開。

平成20年9月のリーマンショックや平成23年3月に発生した東日本大震災などにより、当地域の経済が混乱する中、本所は様々な支援策を行ないました。

経済情勢が急激に悪化した平成21年には、名商緊急行動プログラムとして、経営相談窓口の延長などを展開。さらに「愛知・名古屋」内需拡大「推進会議」を開催し、消費拡大に向けた取り組みを行ないました。

また、東日本大震災が発生した平成23年には、名商応援プロジェクトとして、被災された仙台市内の製造業に対して、製造機械を提供しました。

「名古屋議定書」を採択。多様性世界へ発信。平成22年10月30・31日の新聞各紙は、「生物多様性条約第10回締約国会議 (COP10)」での成果を大きな見出しで掲載しました。

2週間に及んだ同会議は、参加各国の意見がまとまらず、成功が危ぶまれるほど難航。しかし議長国の日本が、粘り強く交渉

した結果、最終日の29日から翌日の30日未明まで続いた全体会合の中で、生物多様性資源の利用に伴う利益配分の国際ルール「名古屋議定書」と、今後の生態系保護の新戦略目標「愛知ターゲット」などが採択されたのでした。

本所はCOP10に関して、誘致活動を展開したほか、COP10支援実行委員会のメンバー

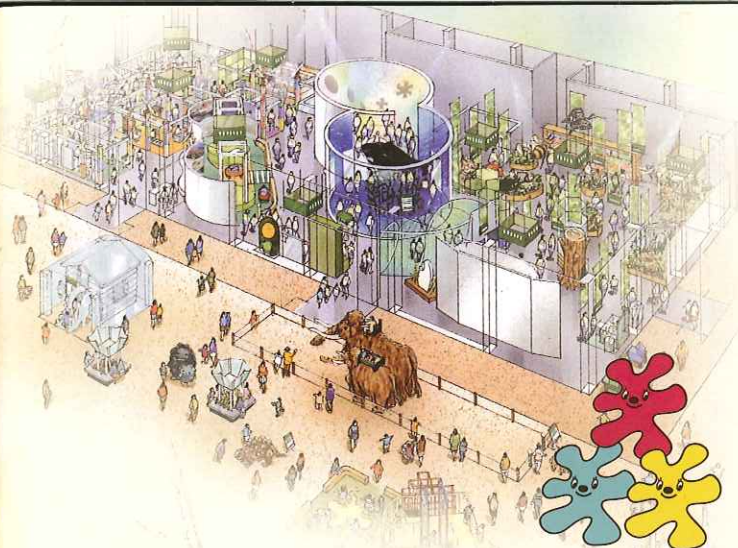
として、会議の支援や機運の盛り上げのための啓発活動などを行ない、会議の成功の一翼を担いました。

一方、社会インフラ整備の促進、大規模イベントの誘致・支援など、様々なプロジェクトに取り組んできた本所は、平成23年に創立130周年を迎えました。商工業の発展に努める機関として明治14年に

組織された本所は、現在でも経営相談やビジネスマッチング事業、インフラ整備に関する要望などを通して、中小企業振興と当地域の発展のために力を尽くしています。

「共に創ろう！ 明日の名古屋」。創立130周年のロゴマークでも使用された、このキャッチフレーズのもと、本所はこれからも当地域の皆様と共に、歩んでまいります。

### IV 創立130周年、皆様と共に明日の名古屋に向けて歩む



■ シンフォニア全景 (イメージ図)

遊びと学びの参加型パビリオン「モノづくりランド シンフォニア」は、技術の遊具ゾーン【屋外】、技術の遊具ゾーン【屋内】、テーマ・プレゼンテーションゾーン、技術の花園ゾーンの4つのゾーンに分かれていました。

■ タクミン

同パビリオンのナビゲーター役としてタクミンも誕生。※「匠の技術を紹介するシンフォニアの住民」から命名



■ 親子マンモスのフミコとコイデ

「モノづくりランド シンフォニア」の技術の遊具ゾーン【屋外】では、親子マンモス「フミコとコイデ」に乗ることもできました。



■ メッセナゴヤ会場

本所は「愛・地球博」と「中部国際空港」の二大プロジェクトで得た貴重な経験・ノウハウを将来にわたって引き継ぐために「ポスト「万博・空港」名商 Successiveプラン」を取り組み、産業の発展と魅力ある都市・地域づくりに貢献するプロジェクトを提案しました。

当プランから、異業種交流展示会「メッセナゴヤ」や外国人との交流を促進する「NAGOYA UNDOUKAI」などの新事業が誕生。特にメッセナゴヤは、日本最大級の異業種交流展示会として広く浸透。平成23年度の開催時には、500以上を超える企業・団体が出展する大規模なものとなっています。

### III モノづくりランドシンフォニア「見えない・触れられない技術との出会いと体験」

「見えない・触れられない技術との出会いと体験」をテーマに、展示会を計画しています。そのコンセプトとして掲げたのが、「自然に学ぶモノづくり」というストーリーです(名古屋商工会議所月報平成16年1・2月号掲載)。「愛・地球博」において、本所が独自に出展したパビリオン「モノづくりランドシンフォニア」の総合アドバイザーを務めた赤池学氏が語った通り、同パビリオンのテーマは「見えない・触れられない」技術との出会いと体験の

プログラムでした。

「モノづくりランドシンフォニア」は、国際博覧会の中で初めて中小企業が主体となって出展したパビリオン。中部地域を中心とした中小企業が「モノづくりの心」と「技術力」を国内外に発信するための事業でした。

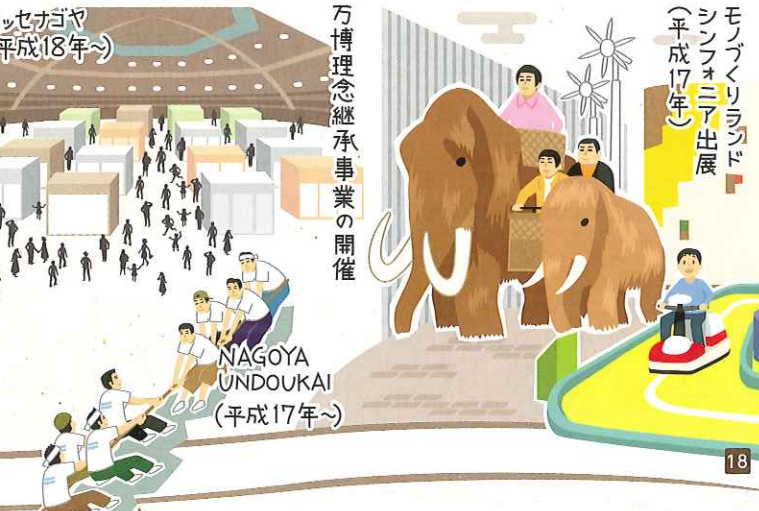
平成17年3月25日～4月24日の31日間の出展期間中、主体となった70の企業・団体は、自社の「キラリと光る優れた技術力・開発力」を駆使し、花や生物の生態を擬似的に観覧・体験できる「花の秘密

生き物のふしぎ」コーナーや鋳物のオブジェ作りが体験できる「遊びのへそ工房」コーナーなど、「花とおもちゃ」という親しみやすい形で表現した展示物を紹介。最終的には24万人を超える方々に来場いただきました。

「モノづくりランドシンフォニア」では、普段は隠れていて見えない、触ることができない中小企業各社の技術力・開発力を世界にPRする絶好の機会となり、大人から子どもまで多くの方に「モノづくり」を身近に感じていただきました。

#### コラム

##### ポスト「万博・空港」名商 Successiveプラン



モノづくりランドシンフォニア出展 (平成17年)

万博理念継承事業の開催

メッセナゴヤ (平成18年)

名商緊急行動プログラム (平成21年)

生物多様性条約第10回締約国会議 (COP10) 開催 (平成22年)

The Next Nagoya大交流会開催 (平成23年)

名商応援プロジェクト (平成23年)

The Next Nagoya大交流会



創立130周年「共に創ろう！ 明日の名古屋」





## 海外展開サポート

会員企業の海外展開支援を目的に各種事業を実施しています。

### ■海外ビジネス展開セミナー

海外での事業展開に必要な基本情報を中心に紹介するセミナー。

### ■中小企業投資環境使節団の派遣

事業の展開先として有望と思われる国の現状の視察会。



■ 中小企業投資環境使節団(ベトナム) 工場視察

## 環境への取り組み支援

会員企業が「経済と環境の両立」を実感しながら取り組んでいたように支援を行っています。

### ■名商ecoクラブ

「環境」をキーワードに、名商ecoクラブに入会しているメンバー企業の環境活動の推進、企業のイメージの向上、ビジネスチャンスの獲得を目指す交流・情報発信の場。



■ 環境ビジネス講演会

## 共済・保険などのサービス

商工会議所のスケールメリットを活かし、割安な掛金で万に備える「生命共済制度」や、メンタル災害、過労災害の新しい労災賠償リスクにも備える使用者賠償責任保険がセットされた「業務災害補償プラン」などの各種共済・保険サービスを提供しています。

## 福利厚生・施設サービス

「ミニ人間ドック」などの健康管理サービスや提携先施設の優待利用、スポーツ観戦の会員レクリエーションなどのサービスを提供しています。

## 貿易関係証明の発給

原産地証明、インボイス証明などの貿易関係証明の発給業務を行っています。

## 中小企業の振興につながる要望

中小企業の振興策や税制改正に関する要望を実施しています。

## ビジネス情報の提供

会報誌やメールマガジン、WEBを利用し、中小企業の皆様にビジネス情報をお届けしています。

### ■会報誌の配布

最新のビジネス情報を紹介する『那古野』や本所の事業案内などを掲載する『那古野Business Hot Press』を会員企業に配布。

### ■メールマガジン「ハ→モニ→」の配信

本所の事業案内やお知らせをメールマガジンで配信。

### ■会員名簿

会員企業の情報を名簿にして提供。

■ 会員名簿



■ 会報誌「那古野」

## 経営基盤の強化(人材確保・支援、代行サービス)

### ■各種セミナー・検定

新入社員から経営者までを対象とした各種セミナー及び簿記・販売士検定など。

### ■人材採用支援

企業の人材採用を支援する「名古屋市会社合同説明会」など。

### ■経営者・後継者育成

若手経営者・後継者育成のための「若鯨会」や女性経営者の能力向上を目的とした「女性会」など。

### ■代行サービス

「労働保険事務代行サービス」やプロのオペレーターが電話対応する「名商秘書代行サービス」など。



■ 名古屋市会社合同説明会



■ 新入社員研修での1コマ

## ビジネス交流事業

販路・人脈の拡大に繋がる交流会事業を行なっています。

### ■名商ビジネス交流会

テーマを設定し、そのテーマに関心がある企業が集まるビジネス交流会。

### ■新入会員ウェルカムセミナー

新入会員を対象に本所の事業を紹介。交流会も併催。

### ■支店長交流懇談会

当地に本社を置かない会員企業と地元企業との交流会。



■ 新入会員ウェルカムセミナー



■ 名商ビジネス交流会

## PRサポート

会報誌への広告掲載やチラシ封入、WEBを利用したPRサポートサービスを行なっています。

### ■会報誌を利用したPR

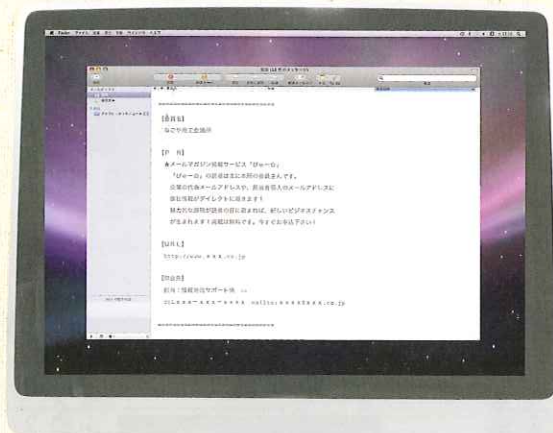
無料広告「会員ボード」やチラシの封入サービス「ビジネス特便」など。

### ■WEBを利用したPR

メールマガジン配信サービス「びゅー☆」や企業情報を掲載できる「NAGOYA ビジネス情報局」「名古屋ビジネスドクターウェブ(土事PR)」など。

### ■メディアに向けたPR

記者に直接企業のニューストックを届ける「メディア直行便」など。



■ メールマガジン「びゅー☆」



■ 会員ボード

名古屋商工会議所

# 現在の取り組み

~中小企業振興~

本所では、中小企業の皆様のために、経営相談をはじめ、ビジネスマッチング事業やPRサポート、各種セミナーの開催など様々な事業を展開しています。

## 巡回や窓口での経営相談や専門相談

経営に関する各種相談を承っています。

### ■巡回・窓口相談

本部及び市内5ヶ所の支部で、常時、経営上の問題・課題について無料で相談が可能。

### ■専門相談

弁護士、社会保険労務士、税理士などの専門家に無料で相談可能。

### ■その他各種相談

発明・特許に関するワンストップサービスの提供や、国際取引に関する相談、IT活用に関する相談など。



■ 経営相談

## ビジネスマッチング事業

商談会や展示会を通じ、ビジネスマッチングの促進に取り組んでいます。

### ■アライアンス・パートナー発掘市

会員限定の事前調整型のビジネスマッチング事業。無料で商談を調整。

### ■メッセナゴヤ

業種や業態、企業規模を問わない、日本最大級の異業種交流展示会。

### ■産学パートナーシップNAVI

企業の課題解決のために、当地域の大学や公設試験研究機関などを紹介。



■ メッセナゴヤ



■ アライアンス・パートナー発掘市





**経済情勢の変化に  
対する緊急支援対策**  
経済情勢の変化に対応し、経営相談窓口の延長など、様々な支援策を展開しています。リーマンショックによる急激な景気落ち込み下の21年度初頭より「愛知・名古屋『内需拡大』推進会議」を組織し、消費拡大に向けた取り組みを行ないました。

■「愛知・名古屋『内需拡大』推進会議」で作成したロゴマーク

### 提言・要望活動、研究・調査

国をはじめ愛知県・名古屋市などに対し、中小企業施策の拡充や社会交通基盤の整備などを求める意見・要望活動を行なっています。また、各種意見や要望、本所事業などに活かすため、経済調査・研究などを行なっています。

### 社会貢献(社会福祉)

社会福祉事業として、会員企業から寄付金を募り、市内の施設に対して寄付金と施設児童へのクリスマスプレゼントを贈呈しています。



■施設児童へクリスマスプレゼントを配る様子

## 震災などへの対応

甚大な被害をもたらした東日本大震災に対して、復旧・復興及び震災により企業活動に影響を受けた当地域の企業支援をするため、行政などと連携して迅速な対応を行ないました。



■名商応援プロジェクト



### ■具体的な対応

- ・緊急特別相談窓口の設置・義援金の募金活動
  - ・震災影響調査の実施
  - ・被災者の受入支援に係る調査の実施・放射性物質に係るサイン証明の発給
  - ・製造工作機械の無償提供の実施
- 仙台市内の製造業者の支援要請を受け、「名商応援プロジェクト」として、本所会員企業などが使用していない製造工作機械などを整備し、提供しました。
- 今後とも会員企業・当地域の企業のご協力のもと、被災地への支援を続けてまいります。

### 地域づくり・観光振興

街づくりの推進や産業観光の振興、商業活性化事業など、活気溢れる地域づくりに取り組んでいます。

### ■名古屋市中心市街地活性化協議会の運営

名古屋市中心市街地活性化協議会を運営し、官民連携による魅力ある街づくりを推進。

### ■産業観光の推進

当地域における産業観光の推進活動を実施。

### ■な・ご・や商業フェスタ

商業の活性化を目的に、市内の百貨店や商店街など一体となり開催。

### ■名古屋の魅力向上

名古屋都市活性化のためのプランを募集するなど、地域の魅力向上を目的とした事業を実施。



■都心活性化プラン表彰式

### 国際交流の促進事業

「世界交流都市・名古屋」を目指し、様々な角度から国際交流事業を推進しています。

### ■海外ミッション(経済交流使節団)

訪問地との経済交流の促進を目的に、本所会頭が団長となり、経済交流使節団を派遣。

### ■NAGOYA UNDOUKAI(なごやうんどうかい)

当地域に在住する外国人と日本人の草の根交流を目的に国際交流運動会を実施。

### ■当地域への理解促進プログラム

将来の国際交流・ビジネス交流に繋げることを目的に、外国人留学生を対象とした産業視察会を実施。



■海外ミッション(トリノ市にて)

### 次世代産業の振興・推進

当地域のモノづくりの特徴を最大限に活かせる分野であると期待される「メディカル・デバイス産業」や次世代産業である「航空宇宙産業」の振興・推進、地域デザイン力の向上などのために、各種事業を展開しています。



■メディカル・デバイス産業研究会

名古屋商工会議所

# 現在の取り組み

～地域振興～

本所では、社会交通基盤の整備に関する要望をはじめ、街の活性化や国際交流の促進、新産業の振興など、様々な事業を展開し、当地域の振興のために尽力しています。

### 社会交通基盤の整備(要望)

国際競争力の強化を目指した社会交通基盤づくりに取り組んでいます。

### ■中部国際空港の利用促進

中部国際空港の旅客・貨物両面での積極的な利用の促進が図られるよう、各種事業を展開。

### ■中部国際空港二丁目滑走路の早期整備

二丁目滑走路の早期整備に向けて政府・与党などに対し要望活動を実施。

### ■県営名古屋空港の利用促進

県営名古屋空港の利用促進に向けた各種事業を展開。

### ■名古屋港の港湾機能の拡充・強化

名古屋港の港湾機能の拡充や強化のための諸事業・要望活動を展開。

### ■海外ポートセールス

名古屋港の利用促進や訪問地との相互交流などを目的に海外ポートセールスを実施。

### ■広域幹線道路網の整備促進

名古屋環状2号線などの広域幹線道路の整備促進に関して、政府・与党などに対し要望活動を実施。

### ■リニア中央新幹線の建設促進

リニア中央新幹線の早期全線整備に向けた要望活動・機運盛り上げを展開。



■「国際バルク戦略港湾選定に対する要請書」提出の様子

本所は、創立130周年を迎え、より一層中小企業支援や地域振興に努めてまいります。経営に関するご相談、街づくり、インフラに関するご要望などお気軽にお問い合わせまたはご意見ください。

**本部** TEL 052-223-5613  
**中央支部** TEL 052-223-5985  
担当地区：中区・中村区・昭和区・西区  
〒460-8422 中区栄2-10-19(名古屋商工会議所ビル)  
地下鉄「伏見駅」⑤番出口より南へ徒歩5分



**大曽根支部** TEL 052-915-3848  
担当地区：東区・北区  
〒462-0825 北区大曽根3-15-58  
(大曽根フロントビル7F)  
地下鉄「大曽根駅」④番出口より徒歩1分



**星ヶ丘支部** TEL 052-781-5633  
担当地区：千種区・名東区  
〒464-0026 千種区井上町49-1  
(名古屋星ヶ丘ビル3F)  
地下鉄「星ヶ丘駅」②番出口より西へ徒歩2分



**新瑞支部** TEL 052-853-4543  
担当地区：瑞穂区・南区・天白区・緑区(大高地区)  
〒467-0066 瑞穂区洲山町2-21  
(あいおいニッセイ同和損保名古屋南ビル4F)  
地下鉄「新瑞橋駅」④番出口より徒歩2分



**金山南支部** TEL 052-265-6441  
担当地区：熱田区・中川区・港区  
〒456-0002 熱田区金山町1-7-8  
(住友生命金山ビル5F)  
「金山総合駅」南出口より徒歩2分







## 特別コラム

# 会報『那古野』と名古屋人上遠野富之助

## 『月報』から『会報』へ

名古屋商工会議所創立130周年を来年に控えた、平成22年3月号発行、会報『那古野』3・4月号の副題に小さなしかし、それなりに重い変更が加えられた。『名古屋商工会議所月報』から、『名古屋商工会議所会報』に、である。

「月」と「会」。たった2文字に過ぎないが、「世紀をゆうに超える機関誌の歴史に、画期をもたらすもの。明治26年10月の創刊当初から、本題は『月報』。昭和61年1月、『那古野』と改題されるが、副題の形で残された。ところが、前記の時点で、サブタイトルも会報に。『月報』の誌名はもう消えて、ない。記念すべき『月報』第1号が、読者のもとに届けられたのは、濃尾地震の衝撃からようやく立ち直り、災害復旧のための諸工事を契機に、景気が急速に回復しつつあったあとの時期。『実業家の紳士たちにとって、連帯と協調の場』も、商法会議所、商工会議所、商業会議所と、「創業時代」を脱し、飛躍していく。

創刊号開巻劈頭の「発刊の趣旨」は、胸を張って謳う。努めて原文に従うと、「月報には、当会議所の諸報告を掲げると同時に、商業家の参考となるべき内外の要報を集め、遺漏なきはもつぱら期するところ。そして、伸びやかに、もし読者その辺に注意して、すこしく得るところありといわば、月報発刊の趣旨は満足すべし」と結ぶ。格調高い文章の筆者は、発行兼編集者の会議所書記長（現在の専務理事にあたる）上遠野富之助その人。

彼は後年、公刊に至る経緯を回顧して、興味深く洩らす。「各商業会議所が相談して、月報をつくり始めた。なにもかも書くことにした。小さいが、やや体裁の整った創刊号を出した。毎号、自分が論説を書き、物価の調べとか、金融の状況、商品集散、鉄道貨物の出入りだとか、色々の表を出した。そこで肩を寄せ、口調を落とす。『原稿は会議所の看板がかつていた。桑名町のみそ屋、加藤庄兵衛宅の暗い座敷で書いた（※1）。十分な働きができずこまった。』

彼は東北の出身。名古屋とは縁もゆかりもなかった。遠く藤原氏に源を発する名門の末裔。近世、出羽秋田藩20万石の藩士の家に、呱呱の声をあげた。幼少より秀才の誉れ高く、17歳で小学校校長。だが、青雲の志を抑えきれず、夢と希望を抱いて上京。早稲田大学の前身、東京専門学校が開校されると、同校で学ぶ。卒業後は『報知新聞』の記者となる。やがて、運命の明治26年の某月某日。彼は素朴で恰幅のよい、漢学の先生を思わせる風采の男と対面。奥田正香と名乗り、近々、名古屋商業会議所の会頭に就任するとか。『名古屋』といって詰らぬ所だが、「三年遊びに来てみよつ」との考えがあれば、きたまえ。人と人との出会いの不思議さ。率直な切り出しに、青年の胸に火花が散った。紅蓮の炎が燃え上がった。提案のポストは書記長。

## 運命の出会い

彼は未知の地に永住し、全力を尽くそうと誓う。すぐ本籍を移して、名実ともに名古屋人に。上遠野の書記長就職

は明治26年7月。とすれば、『月報』の諸業務は書記長としての初仕事ではないか。しかも、前歴が前歴だけに、水を得た魚のような精進ぶりが、眼前に彷彿とする。

彼は明治30年3月、書記長を辞するが、明治32年4月、株式取引所を代表して、会議所議員となり復帰。のち渡米実業団（※2）に参加した副会頭時代を経て、大正10年1月、昭和2年11月、8代会頭の重責を担う。所屋新築、関東大震災にともなう救援、商品見本市開催、名古屋駅改築をはじめ、多くの重要案件を手がけた。昭和3年5月、重篤の病床で多くの蔵書を会議所に寄贈するよう遺言（※3）。生涯を通して活動の舞台となった会議所との強固な絆に、感謝する。奥ゆかしいエピソードには感動を覚える。

## 遺香、馥郁たり

創刊後、幾星霜を経た今日、『月報』のタイトルは消えて、ない。隔月刊の刊行形式がとられる限り、本題はもちろん、副題としても復活の機会はない。だがしかし、である。会報『那古野』の表紙と裏表紙に小さくプリントされた、通巻のナンバー、例えば2011年11・12月号の727。紛れもなく、上遠野が手塩にかけた、『月報』第1号を原点とする、それではないか。『月報』は抱きしめたい程の数字に姿を残し、地下の水脈を目立つことなく、涸れることなく、滔々と流れゆく。

※1 創立当初、名古屋商工会議所の事務所は、みそ屋加藤庄兵衛宅の一角であった。  
※2 明治42年、渋沢栄一率いる日本発の渡米実業団に参加。

※3 現在、図書館業務の閉鎖にともない蔵書は大学などに寄贈。  
※4 名古屋商工会議所の議員クラブ室には、歴代会頭の肖像画が飾られている。



《筆者》プロフィール  
はやし とういち  
※本人の希望により敬称略。  
愛知学院大学名誉教授 法学博士 林 董一  
昭和2年、名古屋の商家生まれ。名古屋大学大学院修了後も、家業を継ぐことなく、研究の道に。尾張藩法と並ぶ研究テーマ、名古屋商人史には生い立ちの影響も。著作として、『名古屋商人史』、『名古屋商人史話』、『近世名古屋商人の研究』、『名古屋商人の根性』など。名古屋中法会会の機関誌『NAKA』に、エッセイ「富裕への良業」を連載中。法学博士。第32回中日文化賞、第21回明治村賞、第28回東海テレビ文化賞など受賞。



## 【参考文献】※（ ）内は発行及び公開年月日。

- ・名古屋商工会議所編『名古屋商工会議所百年史』(1981年)
- ・名古屋商工会議所編『100年のあゆみ、そしていま...』(1981年)
- ・名古屋商工会議所編『名古屋商工会議所 転居の歴史下』(1985年)
- ・東京商工会議所編『先人の志を今へ』(2008年)
- ・東京商工会議所編『東京商工会議所 創立130周年記念映像「実業人の舞台～創立の志を今にむすぶ～」』(2008年)
- ・渋沢青淵記念財団竜門社編『渋沢栄一伝記資料』(1957年)
- ・中部経済新聞「飛翔の中部財界 名古屋商工会議所百年に寄せて④」(1981年10月4日)
- ・中部経済新聞「飛翔の中部財界 名古屋商工会議所百年に寄せて⑤」(1981年10月7日)
- ・中部経済新聞「飛翔の中部財界 名古屋商工会議所百年に寄せて 80」(1981年)
- ・中日新聞(1997年6月13日)
- ・日本経済新聞(平成17年2月17日)
- ・日本経済新聞、中日新聞、朝日新聞、読売新聞、(平成22年10月30日、31日掲載)
- ・名古屋毎日新聞(1928年9月15日)
- ・名古屋市中区史(2010年12月1日)
- ・文化財ナビ愛知 <http://www.pref.aichi.jp/kyoiku/bunka/bunkazainavi>、愛知県(2008年)
- ・名古屋商工会議所『月報』  
(1939年10月号、1956年2月号、1959年10月・11月号、1984年1月・3月・4月・6月号、1987年1月・2月号、1999年7月・8月・9月号、2004年1月・2月号、2005年1月・3月号、2009年3月・10月号)
- ・名古屋テレビ塔 HP <http://www.nagoya-tv-tower.co.jp/>
- ・名古屋市『新修 名古屋市史 第6巻』(2000年)
- ・名古屋商工会議所編『名古屋商工会議所 転居の歴史中』(1985年)
- ・Network2010 <http://network2010.org/index.html>、Network 2010 事務局(2009年)
- ・ワールド・インポート・フェア・ナゴヤ'85 公式記録(1985年)
- ・21世紀万国博覧会関係新聞記事(No.9)
- ・愛知県記録誌 (2005年 日本国際博覧会)
- ・中部国際空港開港記念誌 セントレア未来へ
- ・名古屋商工会議所事業報告 (平成16～18年、平成16～21年)
- ・モノづくりランド シンフォニア実施報告書

## 名古屋商工会議所 130年のあゆみ

平成23年10月21日 印刷  
平成23年11月1日 発行(非売品)  
発行所 名古屋商工会議所  
〒460-8422 名古屋市中区栄2-10-19  
TEL : 052-223-5613 FAX : 052-231-6768  
E-mail : gadprs@nagoya-cci.or.jp  
編集兼発行人 細谷孝利  
印刷 竹田印刷(株)  
デザイン (株)光風企画  
※本誌記事・写真の無断転載を禁じます。